

屋間山スキー

記 T村M

2023/3/11(土)~3/12(日)

メンバー: T村M、T村E、M浦、K村



数年前に屋間山の台地から屋間谷を滑ってカールの広さに感動し、毎年でも行きたいと思っていたが、天気に恵まれずなかなか行けなかったが、今年は好天予報でやっと行けると、期待を胸に屋間山へ行ってきました。

2022/3/12(土) 晴れ

前夜20:40に北野駅に集合、あきる野ICから圏央道を経由し関越～上信越～北陸道と進み道の駅うみてらす名立で仮眠。翌朝、途中のコンビニで朝食を摂り焼山温泉へ。焼山温泉の駐車場は多くの車が止まっていた。

支度をしていると、K村さんが違う板のシールを持ってきたことがわかり大騒ぎとなる。シールの長さが板より長い、幸いなことに幅が一緒だったのでシールの末端を板に固定し対応できた。さらに、M浦さんが、シールが1枚しかないと騒ぎだす。これは車のトランクに落ちていたのが見つかり大きな問題にはならなかった。

7:50 焼山温泉駐車場を出発。

これまで3月20日頃に来ていたが、今年は1週間早く来たためか、林道の雪が多い。これなら、谷も雪で埋まっていて渡渉も楽だろう。

林道を進み、570m付近からアケビ平に入り30分ほどの場所にテントを張り本日の宿泊場所とした。荷物をデポし、日帰り装備で明日のための屋間台まで出かける。屋間台に直登する尾根を避け、1つ西の尾根で、鉢山から続く稜線に上がり、屋間台まで稜線通しで進む。こちらの方が、屋間台へ直登する尾根よりも傾斜が緩く楽だ。

[ここに入力]

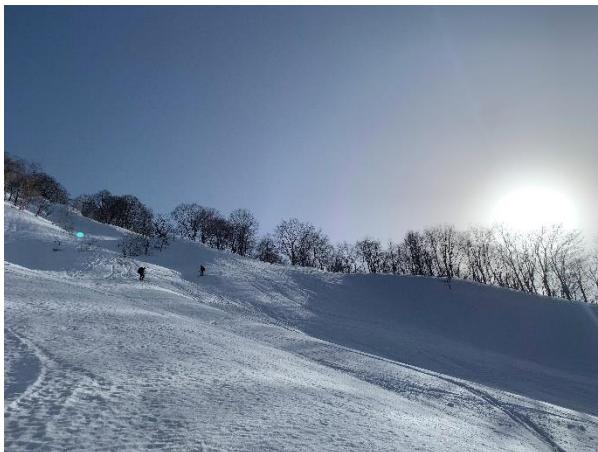


テン場から約3時間半で屋間台に到着。
稜線から見える雨飾山がとても立派で美しかった。



この日はピーカンで気温も高く3月とは思えない。暑さのため、水分不足で足がつってしまった。屋間台で時間をつぶし、下山は登ってきた稜線を50m 下ったところから、北面の谷を滑った。

北面の谷は、滑り出しから適度な斜度で北斜面のため、この暑さの中でも重くなく快適に滑ることができた。



谷を滑り途中から屋間谷へ抜けなければならないため、右岸の尾根から離れないように降り、1100mあたりの谷が狭くなる手前で、右岸の尾根を巻いて(トラバースして)乗越し、屋間谷の方へ抜ける。屋間谷を100mほど降り、標高900mでアケビ平に乗りあがる。乗りあがるポイントの手前から右岸をトラバースし、なるべく登ることなく乗り上げる。

乗りあげたポイントからアケビ平の樹林の中、テン場に向けて滑り込む。GPSでテントの位置を確かめながら、方角を決め、ドンピシャでテン場へ到着。GPSが役に立った。

[ここに入力]



スキー装備を解きテントに入り最初に水を作る。この時期の雪は水をたっぷり吸っているの、水作りも効率よく進む。

それにしても、この日はほんとに暑かった。陽が落ちて辺りが暗くなっても寒くなく、テントの入り口全開のままこの日の夕飯作りを始める。夕飯は比内地鶏スープに豚肉野菜たっぷりの鍋で、メにうどんが4玉。こんなに食べられるのかと言っていたが、食べ始めると昼に失った水分の補給もあってか、食が進む進む、あっという間に全部食べてしまった。



明日は屋間山の頂上まで上がり、屋間谷のカールに滑り降りる。楽しみを胸に眠りにつく。

コースタイム : 7:52 焼山温泉～8:44 アケビ平 8:55～9:40 テン場 10:30～12:06 北西尾根～13:22 稜線～14:15 屋間台～15:18 ルンゼ滑降～15:43 屋間谷～16:05 テン場

2022/3/13(日) 晴れ

朝5時に起床。各自持参した朝食を摂り、なんだかんだ時間が過ぎ7時前にテン場と出発。昨日通ったルートで屋間台と鉢山のコルまで上がり稜線を進み、屋間台の手前で南斜面をトラバースし屋間山へ続く稜線を行けるところまでスキー&シールで進む。昨日は山スキーで大勢の人が入っていたが、この日はスキーヤーは私たち4人と歩きの2人組がいただけで、他には誰も上がってこなかった。屋間の斜面を私たちが占有できると思っていた。



屋間山への稜線1480mのところアイゼンに履き替えここからは板を担いで登らなければならない。

アイゼンに履き替え板をザックにセットし休憩していると、屋間谷のカールの方からバイクのような爆音が近づいてくる。スノーモービルの軍団がカールを縦横無尽に走りまくってキャタピラ跡を着けまくっている。広いカールなのでまだ滑るところあるから大丈夫と思っていたら、一台のスノーモービルが、これから私たちが頂上に登り下山で滑り降りる斜面を、左右にジグを切りながら屋間山の稜線まで上ってきた。さらにもう一台上がってきたが、稜線までは上がりず斜面を下って行った。斜面が荒らされたと思ったが、私たちスキーヤーもその斜面降りることがわかっているだろうから、その辺は考慮してくれていると思ったが…。

とりあえず、板をかついで頂上をめざす。遠目で見るとより斜度はきつくな、どんどん高度を稼いで行く。最初のピーク手前の雪庇もK村さんが先行し乗り越え、私たちは楽しんで乗り越えることができた。



雪庇乗り越え20mほど行ったところにドロップポイントがある。ドロップポイントに板をデポし頂上へ向かう。

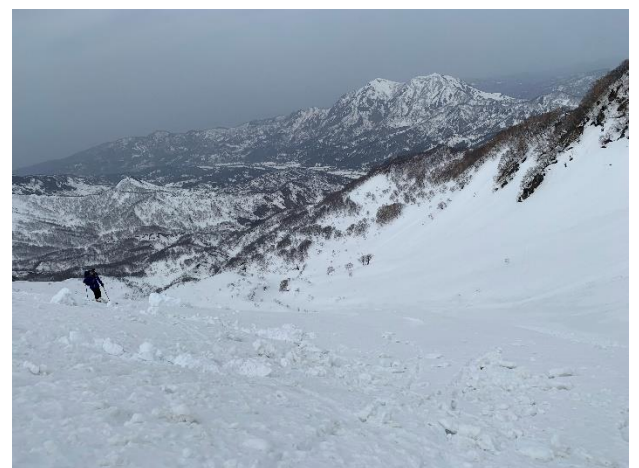


12:46 昼闇山の頂上へ到着。山頂からは、360° の展望が開け登ってきた甲斐があったと思った。頂上で景色を堪能しながら 30 分ほど休憩後、スキー板をデポしたポイントまで下る。

13:40 昼闇谷カールに向け下降開始。



快適な滑りを楽しむつもりだったが、スノーモービルが登った時にできた轍やそれによって引き起こされたブロック雪崩のデブリが半端なく、斜面一面デブリ状態で、全然楽しくない。急斜面をデブリやキャタピラで抉られた溝を乗り越え、ところどころに転がっている大きな雪のブロックを避けながら慎重に下る。荒らすのは広いカールだけにしてほしかった。何も限られた広さの急斜面をこんなにギタギタにしなくてもよいのではないだろうか。斜面の途中でスキーヤーと鉢合わせしたときに、スキーヤーが安全なところまで降るのを待ってくれるのだろうか？



楽しみにしていた斜面が満足に滑れず残念な急斜面の下降だった。斜度が緩んでくる昼闇谷の広いカールに出る。カールの真ん中で小休止、下りてきた斜面のトレースを見て感動するはずだったが、今回は斜面を見てもス

【ここに入力】

ノーモービルの轍とそれによって引き起こされたデブリ跡しかなく、がっかりした。でも、カールから見たカールを囲む稜線は何度見ても良いものだ。それが見られただけでもよしとしたいと思った。M 浦さんと K 村さんは初の屋間谷カールへの滑降だったのに、楽しむことができなくて申し訳なかった。

休憩後、広いカールを滑り屋間谷へと入り、昨日と同じルートをたどりテン場へ戻る。

テン場でデポした荷物とテントを回収し、焼山温泉へ向けて下山。途中の林道もノーモービルの轍が付いていて、デコボコなトレースにはまってしまうと膝にくるので、避けながら滑った。

16:05 焼山温泉の駐車場に到着。駐車場にはノーモービルを積んできたと思われる車ばかりでスキーや一般の登山の車は屋間の頂上で一緒にした2人組の方の車のみだった。地元の人今日のノーモービルの団体が入るのを予想して避けていたのかもしれない。来年以降も屋間山を計画する際は気を付けないといけないと思った。

荷物を片付け、道の駅うみてらす名立で海鮮丼を食し温泉に浸かり、帰路に就いた。

一緒にしたM浦さん、K村さんありがとうございました。できれば来年にでも、きれいな斜面を滑りにリベンジ山行をしたいと思います。

コースタイム : 7:00 テン場～8:30 北西尾根～9:35 稜線～10:42 アイゼン装着～12:17 下降点～12:46 屋間山山頂 13:10～13:22 下降点 13:44～14:10 屋間谷カール 14:30～15:02 テン場 15:35～16:05 焼山温泉